

学校飼育動物の夏の対策

公益社団法人 東京都獣医師会

暑い夏、ウサギやチャボの飼育場所は、建物内にしましょう。特にウサギやモルモットがよだれを出してぐったりしていたら、熱中症ですぐに死んでしまうかもしれません。

動物の健康への配慮を行うことで、児童たちは命の大切さに気付いてくれることでしょう。暑さ、寒さの変化への対応を児童たちに伝えられたら、将来の子育ての基礎をつくることができるかもしれません。

暑さ対策・風雨対策

ウサギやチャボの飼育場所は、建物内にしましょう。屋内での飼育が難しい場合は、飼育舎が落葉広葉樹の木陰にあると夏は涼しくて、冬は日当たりが良く安心です。

雨が降り込む場合、水浸しにならない様に、木製の巣箱の下に台座を敷いて、動物の避難場所を作りましょう。巣箱は風で飛ばされないように固定しましょう。

日陰を作っても飼育舎が暑い場合、室内飼育用ケージなどに動物をいれて、涼しい場所（昇降口など）への移動や、飼育舎の軒下や動物の運動スペースなどにミストシャワーを設置するなど暑さ対策を検討して下さい。また、気温が高くななくても、湿度が高いときは気をつけましょう。

暑さの指標

ウサギ：耳を小刻みにゆらし、鼻をぴくぴくさせて呼吸する。
腹を床につけて手足を伸ばしている。
よだれで顎がぬれている。

チャボ：両羽を広げて、口をあけて呼吸する。

モルモット：ウサギに準ずるが、最初に落ち着きがなくなる。



ミスト設置例

飲み水

ウサギもチャボも人も、生きるためには水が必要です。

特にウサギは夏、または授乳中の場合、大量の水を必要とします。

いつも新鮮な水を、こぼれないような底が広い金属や陶器の容器に入れておきましょう。

なお、容器の内側にコケやカビが生えないように、毎日こすって洗ってください。

休日・休校中の世話

休日・休校中も家庭・地域の協力を求め、世話を続けましょう。

「命には休みがない」こと、児童が大切にしている動物を周りの大人も大事にしていることを、児童に伝えるためにも、当番制で休日・休校中の世話をしましょう。

学校の動物は学校・家庭・地域で守り、児童もその一翼を担っているという体制は、親子の会話や家庭の理解につながるでしょう。

また、この活動は学校・家庭・地域三者が連携した教育活動を充実していこうという、協働意識と協働意欲を高める要になるでしょう。

（休日・学校閉庁日の対応は学校用務・警備の契約に含めている学校もあります）

*学校担当の獣医師あるいは、最寄りの会員動物病院が不明の場合は
本会事務局にお問い合わせください。（電話03-3475-1701）